

3. 計画地の現況

3-1. 概況整理

(1) 自然環境

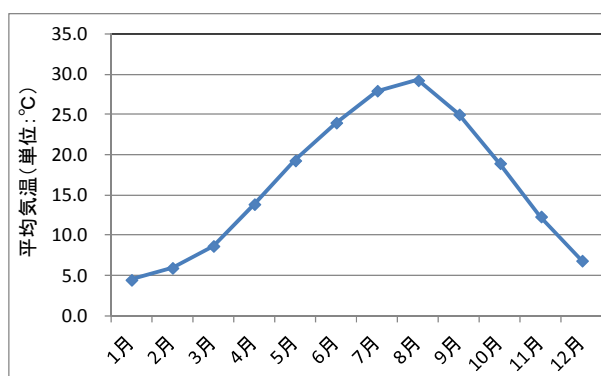
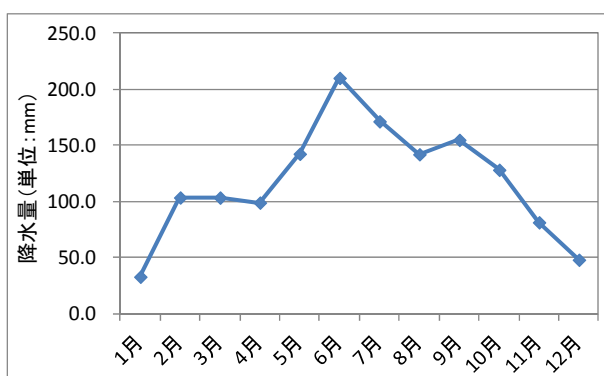
① 気候

a) 降水量

高槻市の降雨量は季節によっても変動が大きく、11月から2月までの冬季は降水量が少なく、6・7月の梅雨と9月の秋霖の時期に多くなっています。なお、平均年間降水量は1,419mmです。

b) 平均気温

高槻市の年間の平均気温は16.4℃で、月別平均気温を見ると、1月に最低気温に達し、8月に最高気温に達しています。最低気温は4.5℃、最高気温は29.3℃となっています。



高槻市月別平均降水量 (H21~H25の平均)

高槻市月別平均気温 (H21~H25の平均)

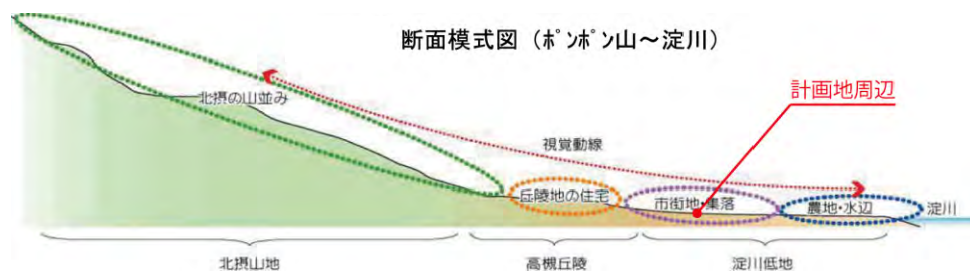
出典) 高槻市 総務部 総務課「平成26年度版 高槻市統計書」

② 地形的特徴

高槻市は、北部に北摂山地、南部に淀川低地が位置し、市域の地形構成を大きく区分すると山地、谷底平野、丘陵地、台地、沖積低地の5つに分けられます。計画地周辺は5区分のうちの沖積低地(淀川低地)に該当します。

沖積低地(淀川低地)

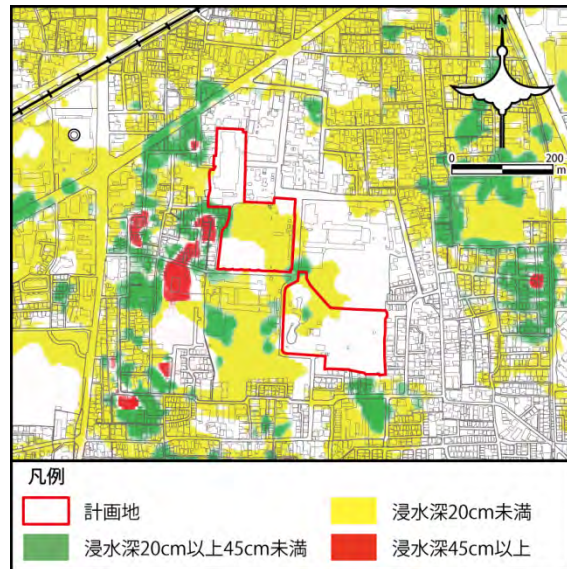
淀川低地の低湿な土地を構成しているのは、粘土や黒泥土であり、表層はシルトである。淀川が氾濫した際に、浸水してしまう範囲で、土砂が堆積して出来た低地である。そのために、低地は淀川の河川敷が広い面積を占めている。



高槻市の地形的特徴のイメージ

出典) 高槻市 都市創造部 都市づくり推進課「景観基本計画」(平成21年3月)

前記に示す地形と現在の排水状況により、「高槻市総合雨水対策アクションプラン」(平成27年2月)では、内水氾濫時の浸水多発地区になっています。既往最大降雨(110 mm/h)における浸水シミュレーションでは、城跡公園は中央エリアと南エリア西側が20cm未満、また南エリアの一部で20cm以上45cm未満の浸水が起こると予想されています。公園周辺では45cm以上の浸水が起こる予測結果も出ています。

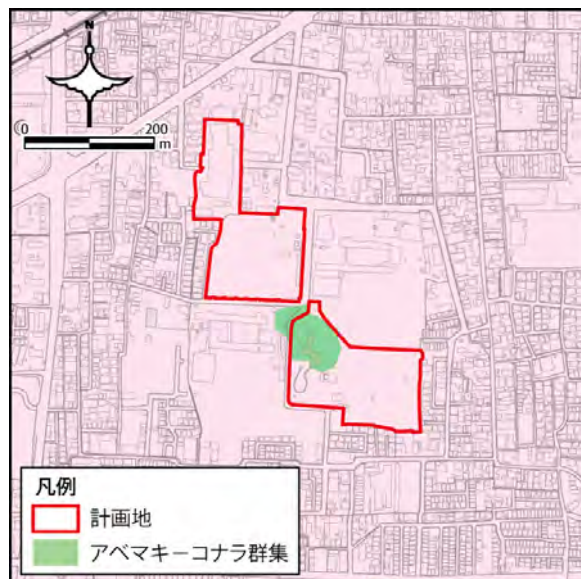


既往最大降雨時の浸水シミュレーション結果

出典) 高槻市 都市創造部 下水河川企画課「高槻市総合雨水対策アクションプラン」(平成27年2月)

③ 植物相

計画地周辺は市街化が進み、自然植生を確認することが困難です。城跡公園は植生を確認できる数少ない場所であり、環境省の自然環境保全基礎調査によると、アベマキーコナラ群集が確認されています。



計画地周辺植生図

出典) 環境省「第6回・第7回 自然環境保全基礎調査 植生調査」
(第6回調査:平成11~16年度、第7回調査:平成17年度~)

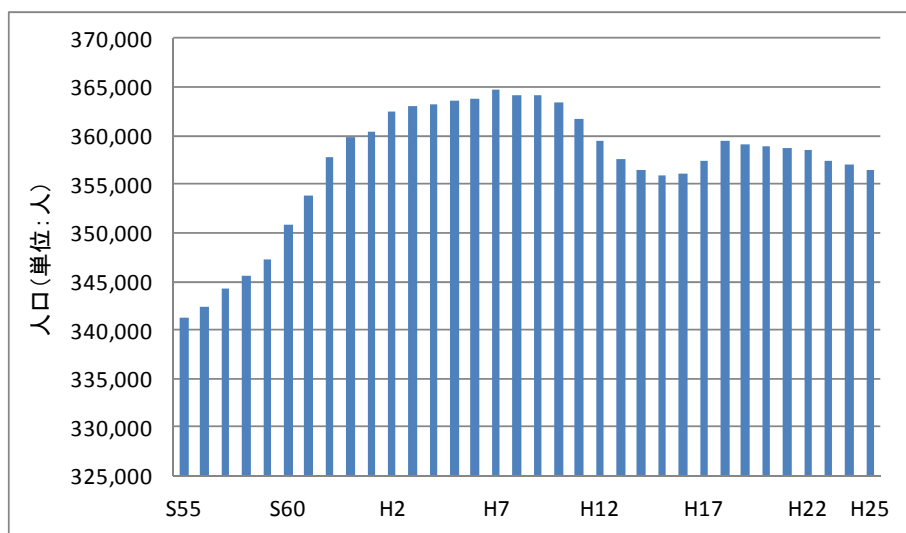
(2) 社会環境

① 人口

a) 人口の推移

高槻市の人口は、昭和 55 年には 34 万人程度であったのが、平成 7 年には過去最大の約 36 万 5 千人まで増加しました。その後は、平成 16 年度～18 年度に人口の増加が見られましたが、全体としては緩やかに減少しています。

平成 27 年 8 月の「高槻市人口ビジョン(案)」によると、将来的に人口が減少傾向であり、45 年後には 10 万人弱減少する想定となっています。



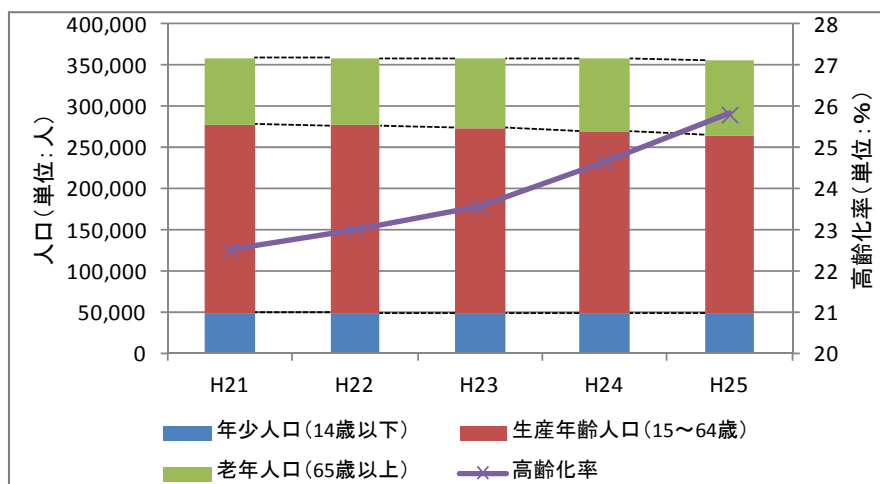
高槻市人口推移(昭和 55 年～平成 25 年)

出典) 高槻市 総務部 総務課「平成 26 年度版 高槻市統計書」
高槻市「高槻市人口ビジョン(案)」(平成 27 年 8 月)

b) 年齢構成人口と高齢化率

高槻市の年齢別構成人口の推移を見ると、年少人口(14 歳以下)と生産年齢人口(15 歳～64 歳)が緩やかに減少しています。それに比べて、老年人口(65 歳以上)は緩やかに増加しており、平成 25 年には高齢化率が 25.8%と、高齢化が進行していることが分かります。

また、統計書の平成 34 年の将来人口では、50 代と 70 代以上の人口が大幅に増加する一方、それ以外の年代が減少傾向にあり、少子高齢化社会の顕在化が予測されます。

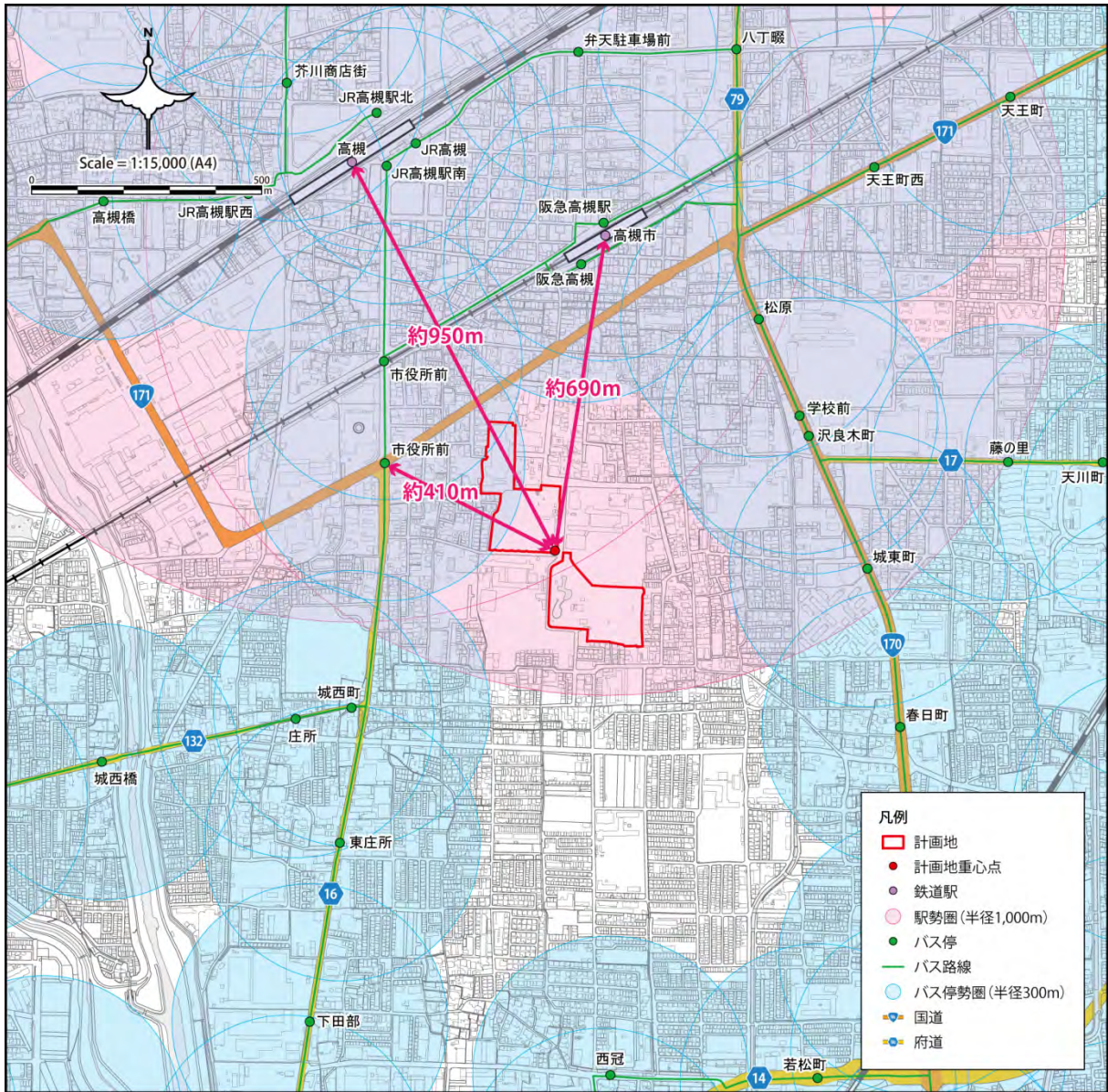


高槻市年齢構成人口と高齢化率(平成 21 年～平成 25 年)

出典) 高槻市 総務部 総務課「平成 26 年度版 高槻市統計書」

② アクセス

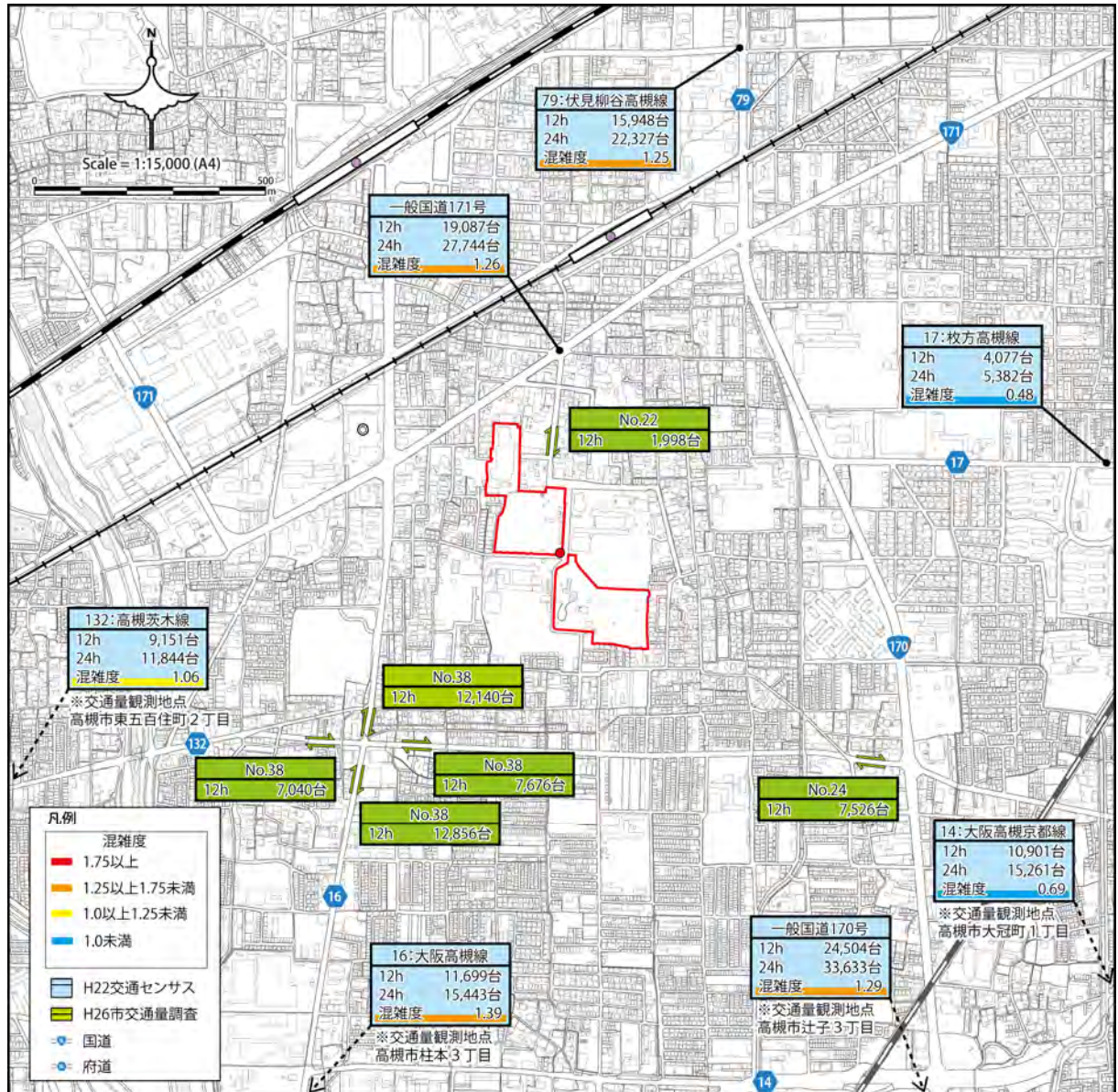
計画地(重心点)へのアクセスは、JR高槻駅から約950m、阪急高槻市駅から約690m、最寄りのバス停(市役所前)から約410mとなっています。



計画地へのアクセス状況図

③ 混雑度と交通量

計画地周辺の主要道路の混雑度と交通量は、平成 22 年度道路交通センサスと平成 26 年度高槻市道路交通量調査の結果から、一般国道 170 号と 171 号、府道 79 号伏見柳谷高槻線、府道 16 号大阪高槻線においては、時間帯により、混雑する可能性が高いことが分かります。



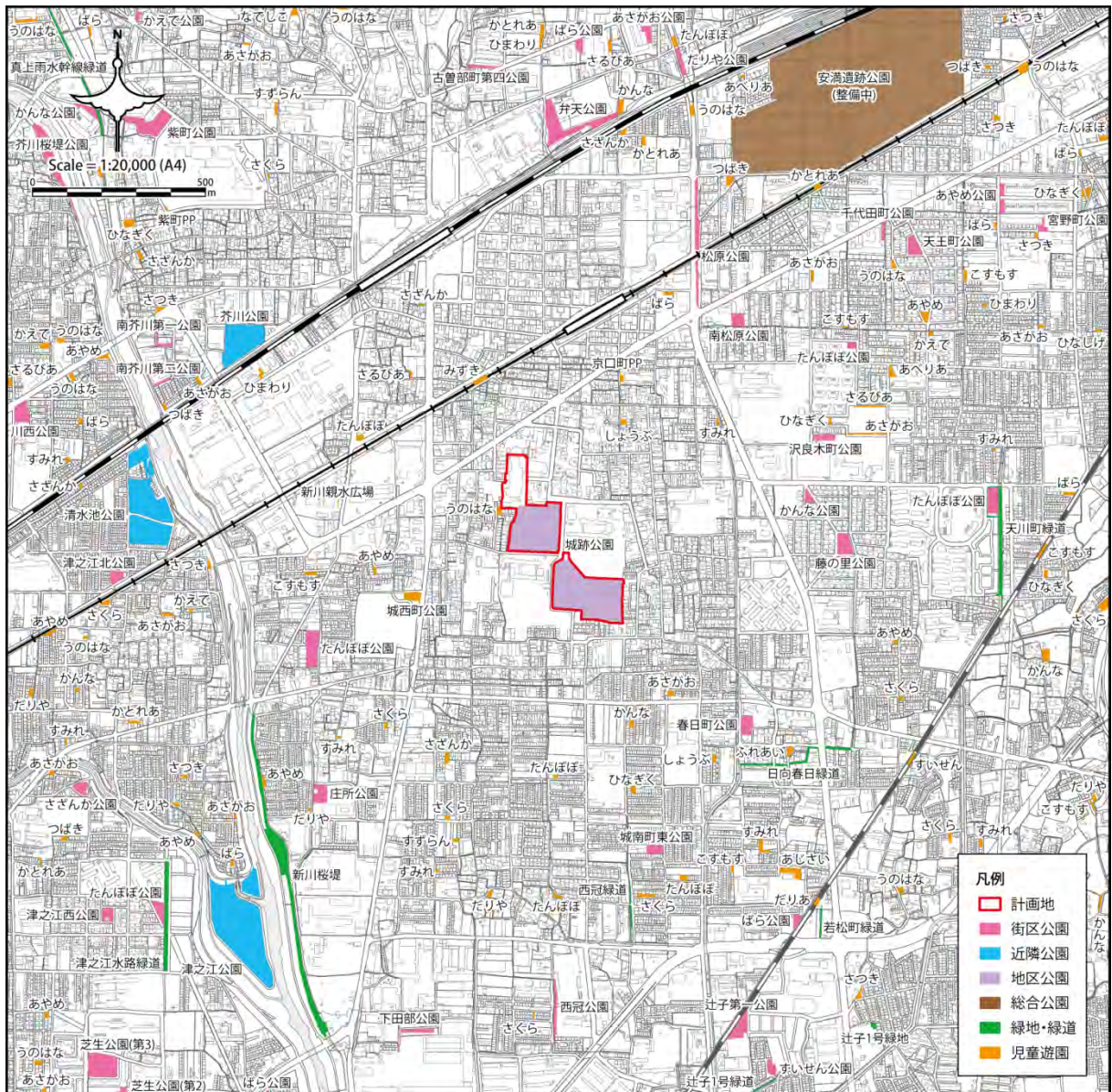
計画地周辺の混雑度と交通量図

注) 混雑度の解釈 (道路の交通量/ (社) 日本道路協会)

- 1.0 未満 : 渋滞やそれに伴う極端な遅れがほとんどない。
- 1.0 以上 1.25 未満 : 昼間 12 時間のうち道路が混雑する可能性がある時間帯が 1~2 時間 (ピーク時間) ある。
- 1.25 以上 1.75 未満 : ピーク時間はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性の高い状態
- 1.75 以上 : 慢性的混雑状態

④ 周辺公園配置状況

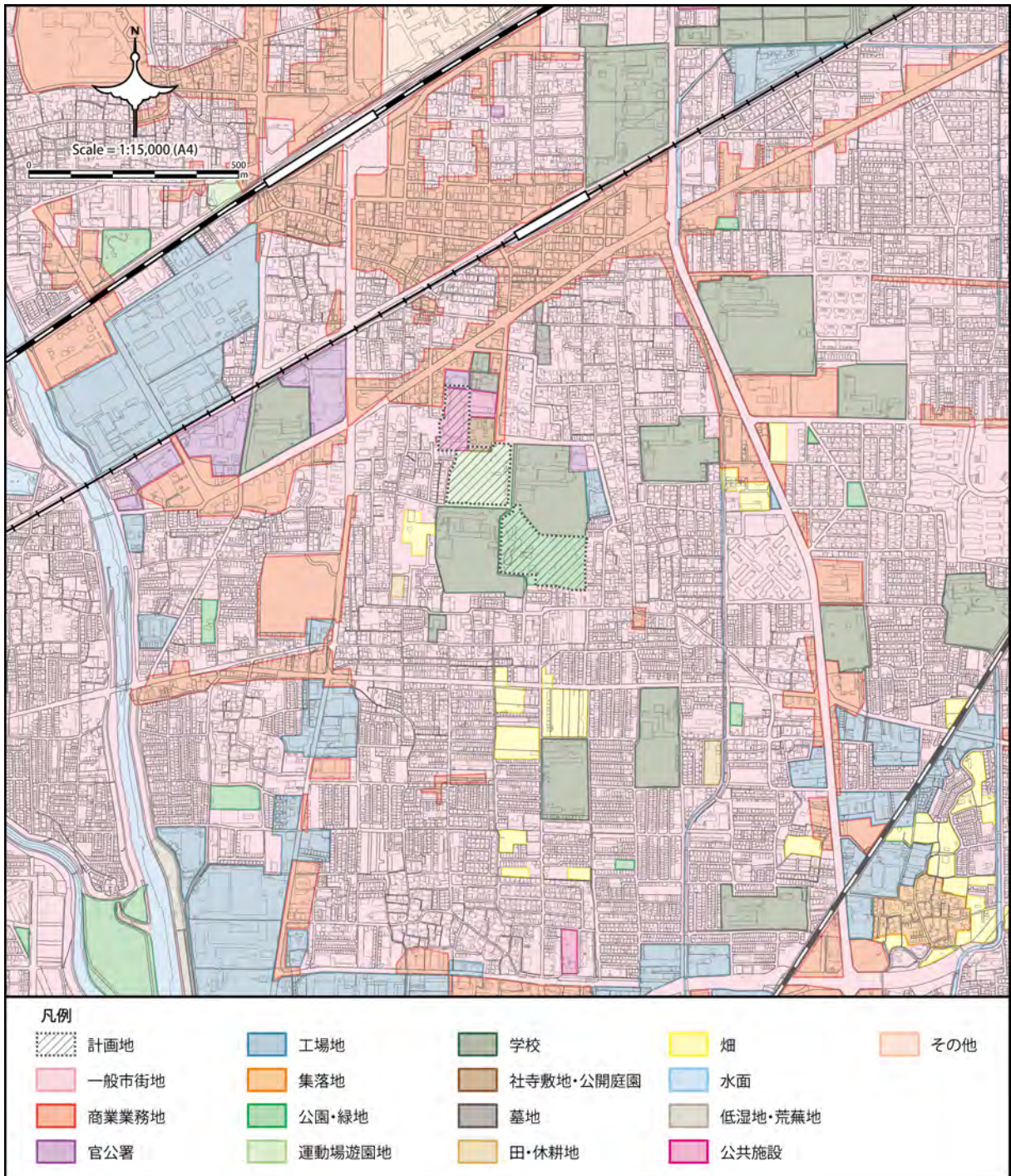
計画地周辺には、小規模な児童遊園が設置されています。



計画地周辺の公園配置状況

⑤ 土地利用状況

計画地周辺の土地利用の状況は、「一般市街地」や「商業業務地」、「官公署」、「学校」、「社寺敷地」、「畑」、「公共施設」となっています。



計画地周辺の土地利用状況図

出典) 大阪府「地図情報システム」(<http://www.pref.osaka.lg.jp/jigyokanri/cals/tizu.html>)
平成 22 年度土地利用現況 (1/10000)

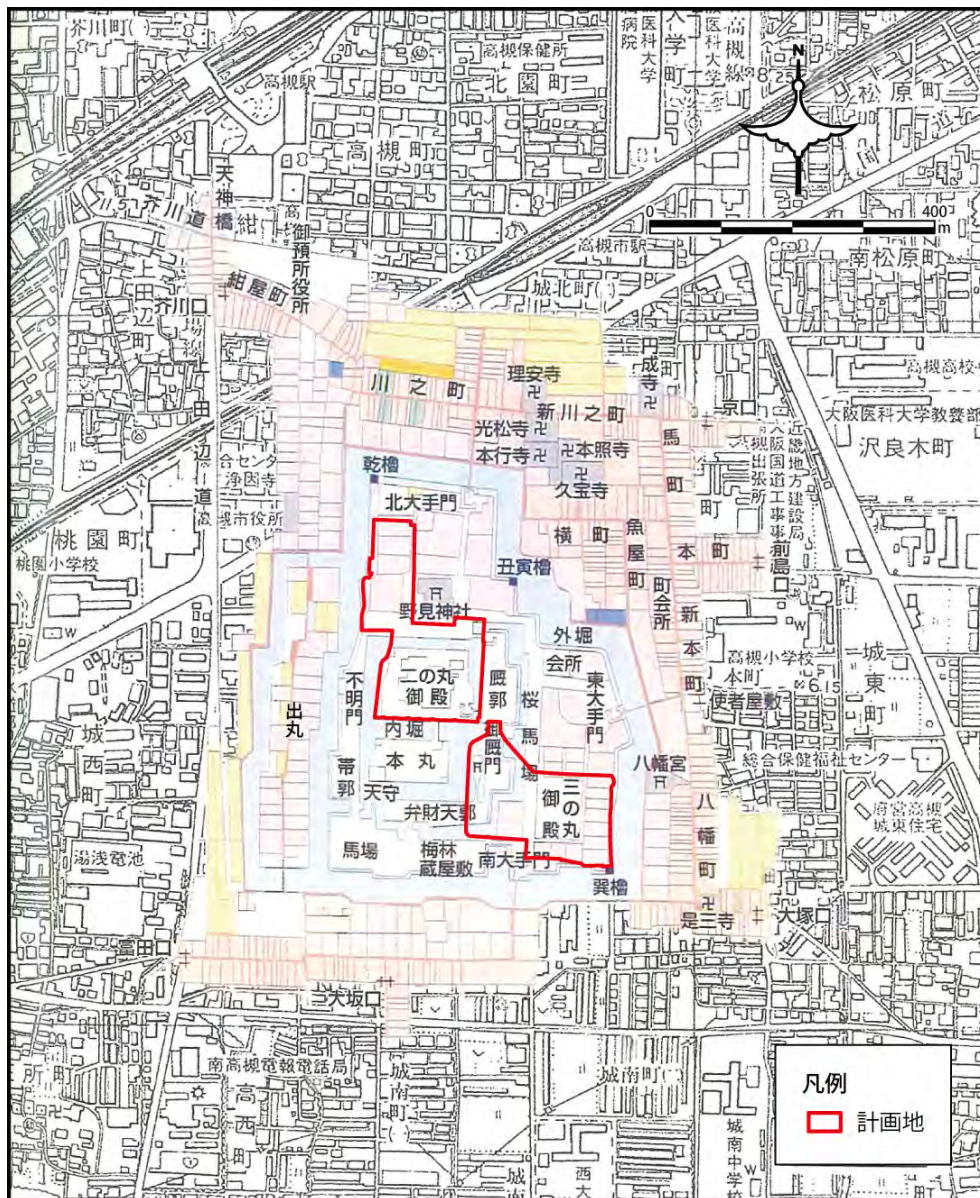
(3) 人文歴史

① 歴史

高槻城は、南北朝期の入江氏の居館に始まり、永禄 12(1569)年に和田惟政が城としての基礎を固め、天正元(1573)年に高山右近が町屋を城内に取り込んで堅固な城郭を築きました。江戸時代、北摂唯一の城郭として重要な役割を果たした高槻城は、大坂夏の陣ののち元和 3(1617)年、江戸幕府による直営改修工事が行われ、近世城郭が形成されました。寛永 13(1636)年には岡部宣勝が高槻城主となり出丸が築かれ、その後、慶安 2(1649)年に永井直清が入城し、以後 13代、幕末まで高槻藩 3万 6千石の譜代大名永井家の居城として、この規模が受け継がれました。

城のつくりは東西約 510m、南北約 630mの南北に長い凸字型であり、本丸・二の丸を中心に三の丸、出丸、厩郭、弁財天郭などが配置され、外堀で囲われていました。

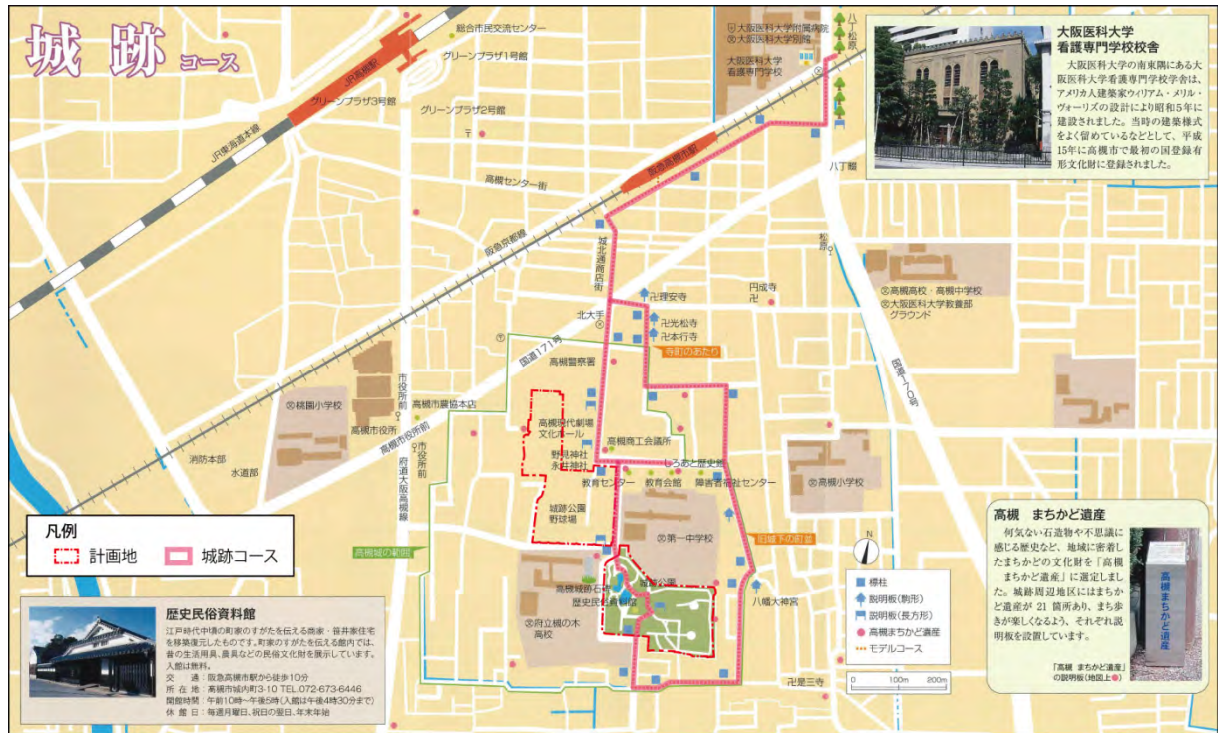
城下町は、城の北側と東側を中心に発達し、北の芥川口と京口、東の前島口、南の大塚口・大坂口・富田口という「高槻六口」を通じて、西国街道と淀川を結んでいました。



高槻城跡比定図

② 観光コース

高槻市教育委員会文化財課では、市内各所の史跡や遺跡、名勝等をめぐる「歴史の散歩路」を設定しており、計画地周辺は、周辺の歴史観光資源をめぐる“城跡コース”として城跡公園を経由するモデルコースが設定されています。



歴史の散歩路 城跡コース(コースガイド一部加工)

3-2. 現況把握

(1) 現況施設の整理

計画地の現況施設の整理を行いました。

○ 現況施設

：公園施設や建築物等について把握する。

○ 記念碑・記念樹

：記念碑や記念樹の設置状況について把握する。

○ 植栽

：現況樹木の設置状況について把握する。



現況施設配置図（北・中央エリア）



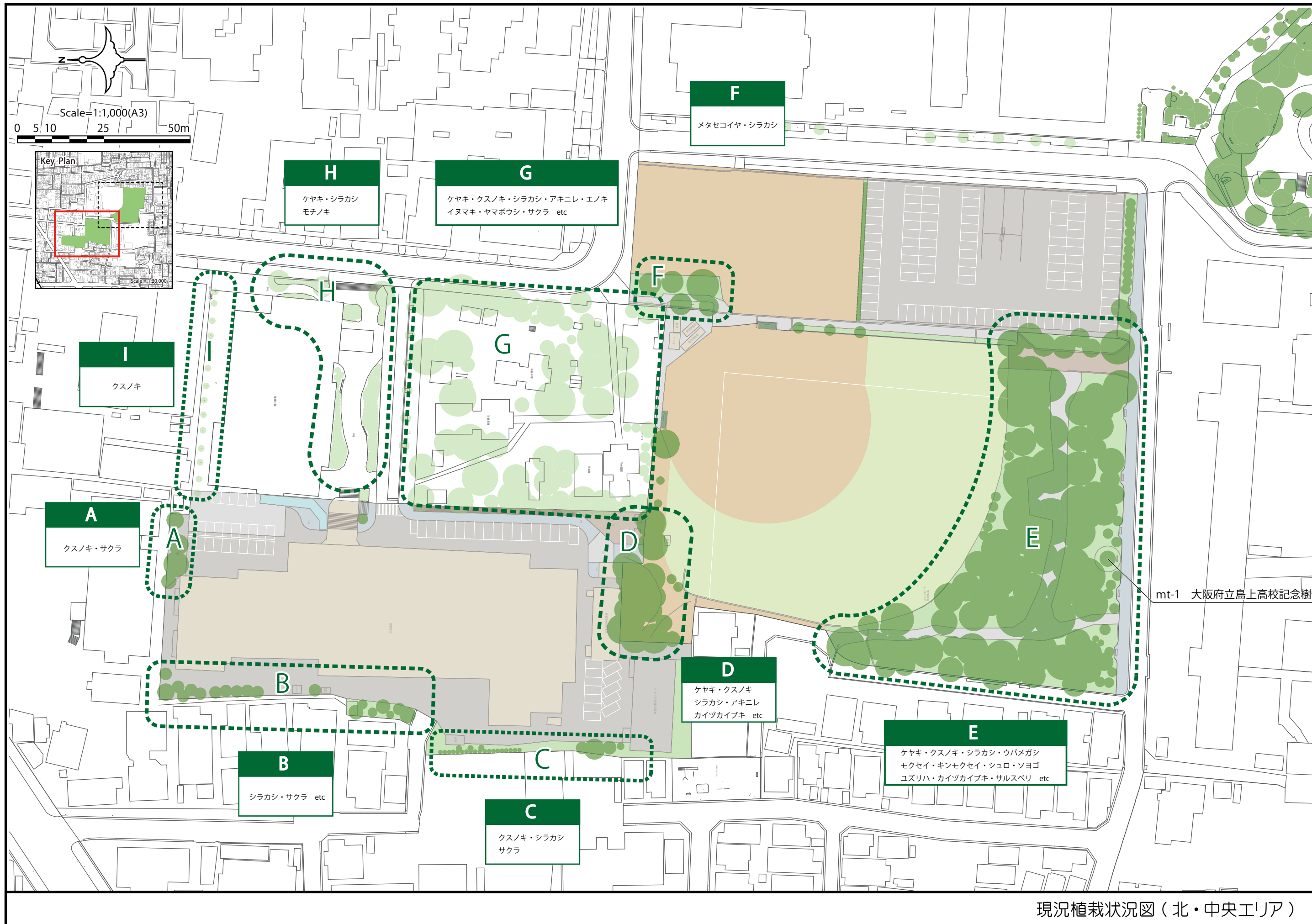
現況施設配置図（南エリア）



記念碑・記念樹配置図（北・中央エリア）



記念碑・記念樹配置図（南エリア）



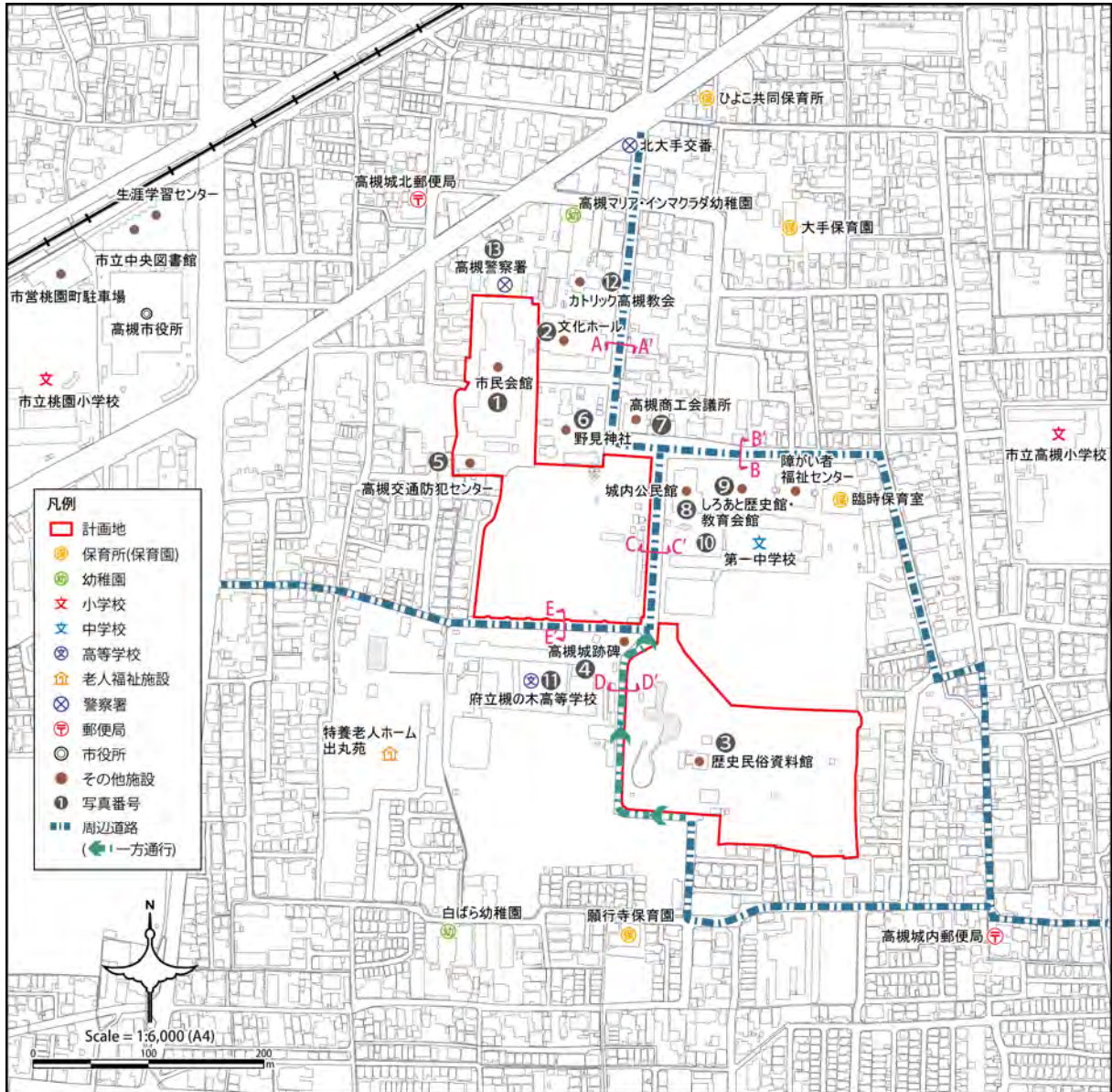
現況植栽状況図（北・中央エリア）



現況植栽状況図（南エリア）

(2) 周辺整理

計画地周辺(計画地内も含む)は、公共施設が集まったエリアとなっています。また、周辺道路は、北エリアの東側を通る車道が片側1車線となっており、南エリア西側に接する車道は一方通行となっています。



周辺施設・道路配置図



1 : 市民会館



2 : 文化ホール



3 : 歴史民俗資料館



4 : 高槻城跡碑



5 : 高槻交通防犯センター



6 : 野見神社



7 : 高槻商工会議所



8 : 城内公民館



9 : しろあと歴史館・教育会館



10 : 第一中学校



11 : 府立槻の木高等学校



12 : カトリック高槻教会



13 : 高槻警察署

周辺施設

A-A'

大手八幡線

- 片側一車線の都市計画道路
- 両側に歩道



B-B'

大手八幡線

- 片側一車線の都市計画道路
- 両側に歩道



C-C'

野見八幡線

- 片側一車線の道路
- 両側に歩道



D-D'

野見八幡線

- 南から北へ抜ける一方通行道路
- 片側に歩道



E-E'

出丸野見線

- 片側一車線の3t規制道路
- 片側に歩道



周辺道路横断面